

ローカル×グローバル 高校生の新たな学び方

Glocal

Action News



学校法人 森教育学園

岡山学芸館高等学校



Special Topic

課題研究活動の集大成! 令和2年度グローバル・SGH 課題研究報告会開催!

2月、課題研究活動の集大成を発表する日!グローバル・SGH 課題研究報告会を開催しました。今年はコロナ禍ということもあり、オンライン実施にチャレンジしました。合計発表数15ゼミ(EIGOKA 論文含む)から28チーム、発表者総数約90名!文系から理系まで様々なテーマで発表しました。

課題研究活動を始めて6年目、生徒のみなさんの主体性ある学び方が普遍化されてきたと感じます。

今年の研究報告会のテーマは「Self- (セルフダッシュ)」。自分で取り組むからこそ、自分と対話し、自分の意志を持ち、自分で

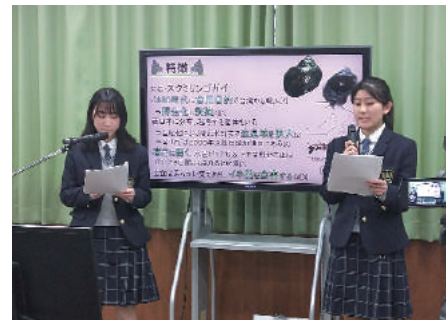
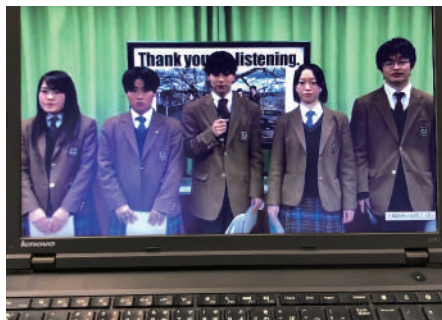
活動し、自分に自信が持てる。今年は言葉に気持ちの乗った発表が多く、テーマを体現した発表ばかりとなりました。

「高校生にだって、社会に何かできることがある。」これは岡山学芸館高等学校が課題研究活動を始めたときからのテーマです。主体的に社会と向き合い、分析し、行動に起こす。そして振り返り、ブラッシュアップしながらミライを創造するために思考を深める。このような課題研究活動のあり方をこれからも追い求めていきます!

今年は発表希望者数が過去最多となりました。生徒のみなさんの主体性が求められたものではなく、自らの選択として形に

現れていることが何よりも嬉しく思います。

基調講演を頂いたベネッセコーポレーションの小村先生を始め、多数の高等教育機関、県内外の他校、行政やNPO団体の皆様にご参加頂きました。本当にありがとうございました!



2年生合計27グループの課題研究発表!

今年はオンラインで開催されたため、文系・理系を問わず様々な課題研究の発表を行うことができました。発表を希望する研究グループすべてが発表しました。どの研究も先行研究からソーシャルアクション、考察まで非常に完成度が高

く、今まで積み重ねてきた学びの深さを感じることができました。中には文理融合のSTEAMを体現する発表も!学芸館には自由な研究活動が校内に溢れています!



ゼミ名	発表タイトル
シミュレーション活用ゼミ	SIRモデルを用いた感染症拡大の考察
自然環境調査ゼミ	優秀賞 ピンクのあいつ in 田んぼ
	バイオメティクス～昆虫との繋がりを探る～
	大集結!小さなカイガラムシ ～被害を食い止めるためには～
国際医療・看護ゼミ	学芸館の先生方を糖尿病から守るために ～食事・運動療法を踏まえた予防医学的アプローチ～
循環型社会形成ゼミ	カンボジアにおける環境教育開発とその実践 -日本の「もったいない精神」が世界を変える-
	カンボジアの循環型社会システムを考える -サーキュラー・エコノミーの実現に向けて-
	サーキュラーエコノミーを通じたSDGsの実現へ-カンボジアの環境問題は正に向けたビジネス案の構築-
国際観光・地域観光ゼミ	地元のまだ知らない魅力 ～西大寺を活性化するために私たち高校生ができること～
スポーツ社会ゼミ	スポーツDE地域活性化!岡山に住む外国人の本音に迫る
国際理解教育ゼミ	それいけ出前授業 ～生徒会長とその他による国際理解教育講座～
	国際理解を小学生に広めるために ～未来につなぐGCED～
	今すべき国際理解教育 ～小学生と考える未来～
ソーシャルビジネスゼミ	カンボジアの縫製業の問題に私たちができること ～Sui-johとの商品産学協働開発～
栄養・保健ゼミ	「子ども食堂」で地域全ての人をつなげる ～高校生の私たちにできること～
	本当に必要な外国人向け医療パンフレットの作成
幼児教育ゼミ	「助けて」が言えない子ども達 ～児童虐待が伝える子ども達からのSOS～
	「遊びから学びへ」カンボジア教育支援計画 ～高校生にも出来る支援とは?～
女性と社会ゼミ	男性の育児休業の質的検証 ～男性の真の育児参加に向けて高校生ができること～
	現代日本にふさわしい売春防止法を考える ～全ての人に平等な社会を創るために～
	ジェンダーステレオタイプ構築への幼児教育の影響
NPO・NGO参画ゼミ	YoutubeがもたらすNPO法人への効果の検証
多文化共生ゼミ	多文化共生社会を目指して ～技能実習生ってどんな人?～
	共に生きるってどういうこと? ～プロジェクト実現から学んだ、私たち高校生のあるべき姿とは～
海洋ゼミ	最優秀賞 "里海の聖地"におけるアマモ場再生活動および牡蠣殻を再利用した干潟保全について
E I G O K A	障がい者用のオンライン教育～学校のあるべき姿～
	カンボジアにおける安全な水の提供とプラスチックごみの削減に向けて

